詔乃やまとこと

下

ホ利2
7
2

ホ 2
7
2止

門 木利2
號 7
卷 2

詞八衢下卷

多行之圖

并受るてにをはの圖

	四段の活	中二段活	下二段活
	打ウツ 待マツ	落オツル 閉トヂル	捨スツル 撫ナデル
た	まんぬしでぞ	まんぬしでぞ	まんぬしでぞ
ち	うてきて くるなば しるぬる ちろ	うてきて けるなば しるぬる ちろ	うてて けんなば しるぬる ちろ
つ	うんぎらめ ぐきらし とるぞと	うんぎらめ ぐきらし とるぞと	うんぎらめ ぐきらし とるぞと
る	うをふまでかな	うをふまでかな	うをふまでかな
て	をやせど	をやせど	をやせど

○此行ふそ一段の活用なし

四段の活詞

○古今集箋ふわの長点をかうむる　六帖五の紬
後撰集意よそのこそひつ　金葉集春ふ池よ
ひて此詞九此行の中二段ゐも活きて

○みつ　古今集又汐こそ入ゆるいそのの　後撰集ふ汐みあ
ゆきけそ　拾遺集意よ汐こそるたどれりかふ又こつ源氏
後拾遺集ふ彩こつ　志賀物語藤原君の巻ふ紙
がひみがし　やたとこ　又吹上巻よ杜こんとて云く又同巻の
歌よ志賀のこつ　源氏物語真木柱よむぬるこつ
て云く　冊後守為忠家百そに盛忠いかなれば　
自新の云くなど拾いとおほしけるかく　
中二段よこつ　こつれともはこつ　如く思ふ
に志の活きたる一ツもあせ　志れたのごくこれ活き

[illegible]

[illegible]

[illegible]

他の[illegible]

中二段の活詞　此部[illegible]と俗言[illegible]例[illegible]

○いきつる　おつる　懼　くつる

○きつづる　○そそぐる　とつる　ちつる

○ぬつる　○とみづる　○ちつる

○いきつる　古事記上巻ふ嗜伊佐知伎[illegible]又下に哭伊佐知流

[illegible]

ひ[illegible]ハ俗言の例なり　続日本紀宣命に荒備流[illegible]も俗言[illegible]例なり

○きつづる　日本紀孝[illegible]巻[illegible]諸倉山田大臣於皇太子曰云く　続日本紀宣命ふ譏治まるとし[illegible]云く　字鏡[illegible]　諸ハ譏也　志已豆[illegible]とあり[illegible]

[illegible]

[illegible]

○そそぐる　堀河百[illegible]雑[illegible]被[illegible]　拾遺集恋[illegible]

○ぬつる　拾遺集恋[illegible]

よたかゝるとゝ　うらうらまでひつる　紐の意　蜻蛉日記に紐ゝつる時と
きたにてゝゝなつかしきしら　源氏繪角ふかく紐ひつるなと　堀河二
帝に袖をゝ引つるも此詞　○もみつる　万葉十ふ山の將黄變　古今集みゝはしよりもみつ也
もゝゝきれ　新古今ゝゝるゝゝ　○ゝゝる　出雲國造神賀詞に弥乎知尓御表知坐云く　万葉
集十七ふしゝぶなのれル乎知母かゝゝき用せに物花ゝゝるない
や乎知ふさけてゝ後の哥に郭公ふゝゝかゝゝ　ゝゝゝゝ
たゝゝぶれゝゝも代活ちゝゝし

下二段の活詞　此活るゝと俗言にそてゝるとゝ例あり

あ　あ　い　う　え　お
ある　。あつる　いゝる　。うる　ゝる
かなつる　ゝゝぶる　ゝゝる　ゝゝる　ゝゝる
たつる　なつる　ゝゝる　ゝゝる　ゝゝる
まつる　。ゆる　ゝゝる　ゝゝる　ゝゝる

○あつる　字鏡に惶急阿和豆とあり　○ゝゝる　古事記上巻かぬぎ宇豆又葉をゝゝるとゝある後
○ゆつる　字鏡に爍以某入湯云く奈由豆とあり　又茅花抜
古事巻に出ゝゝゝゝ

ふわんてるもたてて　土佐日記よりあとびて　さもはも
さらぬ又かゝ川紬をもてくもゝく　夫木集に好ち川のゝ
枝ひて　此外みてなどいくるもてハ　もてゝせ　ゝてゝを
ゝゝく　もてハ　みてハ　みてせを　ゝたてていくるの
ゝてつ　つれなど　ゝたてゝ　ゝたてゝき　ゝたハ
ゝてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ
寄りゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ
ゝたゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ　ゝたてゝ

奈行之圖　美受るてにをはの図

變格の活	一段の活	下二段活
往（イヌル）死（シヌル）	似（ニル）煮（ニル）	兼（カヌル）束（ツヌル）
奈	尓	祢
きんぬじでぞ	きんぬじでぞ	きんぬじでぞ
尓		
てきて なば ぬる ちり	てきて なば ぬる ちり	てきて なば ぬる ちり
奴	寄	奴
めりんぐきらし とゝも	めりんぐきらし とゝも	めりんぐきらし とゝも
奈		奈
かなそ ふを より	かなそ ふを より	かなそ ふを より
祢	乳	乳
ぞ ゆく ども	ぞ ゆく ども	ぞ ゆく ども

◎此行ふそ四段の活中二段の活なり

⊙変格の活詞そ因の上り紀せる往死の詞ニツのこれつり活
ざるそ大伝四段の活れごとくにて切るゝとつづくとれ詞
ニうよりられこれこれの活びニつあり下知の詞そ称とのよかとし

一段の活詞

ふ活 似　　ふ活 煮

下二段の活詞

此ぬるを俗言ハ称るとのよ例ちく

かぬる　　かるゝぬる　　かるゝぬる　　たぐぬる
たるゝぬる　　たぐぬる　　たるゝぬる　　たぐぬる
たるゝぬる　　たるゝぬる　　たるゝぬる　　たぐぬる
ゆるゝぬる　　ゆるゝぬる　　ゆるゝぬる　　ゆるゝぬる

⊙かるゝぬる 万葉十八ノ歌しけるゝの許登可多称もとあく
○たぐぬる 万葉五ノたるつる法えるに多何称提とよんつ
○たるゝぬる 万葉十五ノきるゝのりくゝるれるがるるあとあ
多多称えくといくつ
○ゆるぬる 蜻蛉日記ノあるゝひきたるびねなどして云くと行つ
⊙たるゝぬる 古事記下巻ノ須佐婆如流母能 まくと万葉集二ノ
奥津かいるゝなる波称そ邊津かいいとれたるとと行つ
○ふるゝぬる 日本紀用明巻ノ摂万機をよろ称のまの

ぬかそうてとよろう　続日本紀宣命の萬
政摂以をよ行ぶの[illegible]ことまふさねまもりて少くみろう
散木寄歌集釈教の奇れそ〳〵書よ方かこふさまてかの函
〳〵ふるこもまたなどあり
○ゆどぬる　日本紀の付をゆどぬとよろう
○わがぬる　大和物語又かへうがまて佐く弁う又枕草紙
[illegible]

四段の活

逢 ラ	問 トフ
㋐	㋐
きんぬじでぞ	きんぬじでぞ
㋑	㋑
しるんうて	しるんうて
きちぬるなば	きちぬるなば
㋒	㋒
ときらしぐきらんめり	ときらしぐきらんめり
㋓	㋓
よろをふまでかな	よろをふまでかな
㋔	㋔
どもゆくで	どもゆくで

一段の活

吁 ヒル	噴 ヒル
㋐	㋐
きんぬじでぞ	きんぬじでぞ
㋑	㋑
しるんうて	しるんうて
きちぬるなば	きちぬるなば
㋒	㋒
ときらしぐきらんめり	ときらしぐきらんめり
㋓	㋓
よろをふまでかな	よろをふまでかな
㋔	㋔
どもゆくで	どもゆくで

中二段活

戀 コフル	侘 ワブル
㋐	㋐
きんぬじでぞ	きんぬじでぞ
㋑	㋑
しるんうて	しるんうて
きちぬるなば	きちぬるなば
㋒	㋒
ときらしぐきらんめり	ときらしぐきらんめり
㋓	㋓
よろをふまでかな	よろをふまでかな
㋔	㋔
どもゆくで	どもゆくで

下二段活

加 クハヘル	辨 ワキマフル
㋐	㋐
きんぬじでぞ	きんぬじでぞ
㋑	㋑
しるんうて	しるんうて
きちぬるなば	きちぬるなば
㋒	㋒
ときらしぐきらんめり	ときらしぐきらんめり
㋓	㋓
よろをふまでかな	よろをふまでかな
㋔	㋔
どもゆくで	どもゆくで

波行之圖　并受るてにをはの図

四段の活詞

なつ　なが　なき　なぐ　なげ　なら　なし　なる　なれ　いく　いそ　いで　いと　うか　うた　うる　うす　うせ　うま　うみ　うら　うる　うる　うる

むかふ　もそふ　もそこふ
もふ　もらふ　やらふ
やふ　やらふ　ゆふ
よぶ　よそふ　よもふ
よろこぶ　よろがふ　よろこふ
ゆやふ　ゆふ　ゆるぶ
○ゆぐふ　万葉集十七ふ安賀布（アガフ）いめそ　字鏡ふ安賀布（アガフ）
なぐ　なぐあめ
○ゆぎとふ　古事記中巻ふ始爲阿藝登比（ハジメテアギトヒシタヒ）　蜻蛉日記り
あれかまよ　たぐ　てもろ　ろ人のゆぎとふ

やうにたまれぞ　ぐ　なぐあり
○ゆくふ　日本紀神代巻ふあくはあかもふとあり
○ゆくなふ　日本紀神代巻ふ奸賊（アタナフ）とあ素
○ゆくもふ　万葉二ふ御軍乎安騰（アトモヒ）毛比賜　又九ふ阿騰（アトモヒ）母比
くなぐ　行あり
○ゆなくふ　続日本紀宣命ふ阿奈（アナ）奈比（ヒ）奉とあり
○ゆぬふ　日本紀仁德巻舒明巻ふ不和をゆぬなぐ
よそ　あ　あ　あまよ　たくん　とふ　とあ　か
、　て　此行下二段の活用格なり
○いこ　ふ　古事記中巻ふえくもやこ八伊碁（イゴ）餌布（ヒフ）そ

とあり

○いさのふ　大和物語に伊勢かたのいさのふ　落窪にあかつきのいさのふてなどあり

○うけふ　古事記上巻ふ宇気布とあり　伊勢物語に法師のうけふてなどあり

○うなかみ　万葉十八に神あり宇豆奈比　続日本紀宣命ふ相宇豆奈比奉なども見あり

○うなふ　拾遺集に丹後守為忠朝臣の忠盛とあるの衣のうなびるかなどあり

○かぶ　万葉九に加賀布嬢歌とあり

○かくふ　金葉集雑ふかくふ垣穂の好忠集にかくふねど蓬のまがき　堀河百首雑にかくふなる葉の庭　丹後守為忠家百首に仲正かくふひてきけるかきつばたなどあり

○かそふ　古事記中巻掠取其母王　続日本紀宣命に高御座次平加蘇毘奪まして皇位を掠天なとあり又日本紀継體巻ふ捉をかそひとあり

○かぶふ　万葉十八ふ乙と加多波年かも　後撰集春ふ山風の花の香かぶふ　○こふ　万葉四に久流比に久流比　○ころぶ　日本紀神代巻ふ発稜威之嘖譲又神武紀ふ詰嘖之

又万葉十一ふ[illegible]に所嘖（コロバエ）ぬ思ふあれを又十四ふ[illegible]
[illegible]又許昌波（コロバエ）要なでも行りけて此詞十二段の活りともあれて
[illegible]まで[illegible]の[illegible]波[illegible]を[illegible]中二段の活詞の其第一の[illegible]
[illegible]より 良 行の下二段の活ふこころだれちぎりよ例なしかくふ
[illegible]四段の活[illegible]ばかりこころだえハこころぶれ[illegible]
○[illegible]ふ 大綾詞又佐須良（ザスラヒ）比[illegible]なひてん 源氏おかる[illegible]
徳角ふあるまでき[illegible]ふたぶし 金葉集意[illegible]
物[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

○さらがふ　源氏竹川巻ノ又之巻〜かひまろ〜総角巻ノ
尼〜さ〜かふなど〜もあり

○たふ　続日本紀宣命ふ多婆受とあり又後ノたまひたく
などいふるハ〜そび　そべを考ふといふるなり

○たくはふ　万葉十九ふ多久波比おきてとあり此て外ノ活
きるるとえくざれバ中二段の活をしかノ言あかこれど
これなるきのはなりに似ればえこそ少もうゑおもふ
此詞ノ用ふる下二段の活ともおもふてこきこゆまバ
たくはへといふべきを第二の音ふうつて右のごとくいふるふて
うれへをうまひ　ほぐそへを　ほぐハひ　そべを　そべひ

おもなへを　おもなへを　なるといふる此例ノ中この中二段
の活のうまひるとふ詞のところふいふることなり考ふべし
べし　あらそを　あらそひ　おもなみなどんまれ　ねるあを
ねて此外四段の活ノまたいふる例ふし

○活ふ　公忠集ノよ〜に於〜ふるこれ外のくはり

○てらふ　日本紀哥ふ山のくたることよこのもよ人涅羅賦ノ
やつげハとものくもなし又字鏡ノて〜ばとあり

○なぞらふ　後撰集春ふ身にかなぞ〜ふる　源氏さわ〜びの
巻ノなぞらふ人せふあり　なぞらふ　又ものとて〜ふなぞらふ
又行幸ふなぞ〜ひてもえ〜ちぐ〜ハとなど物まみさて

かく只仮名法華経八他のものゝこれらなぞらへといふこの
行下二段ハなぞらふ　なぞらふる　なぞらへ　なぞ〳〵
とゝゝみゝきゝとゝそ他のもれをなぞらふぬぐとゝゝ
ゝゝ所りかゝかくかなをし行をぞゝ法のこゝかゝるゝ
自他をとゝろいとをゝれどゝとゝいきゝゝまぎらとゝげ
なれハけりでにあきるよくあくなり
○かよふ　落窪ハうつゝをとゝふゝあり
○ゆぶらふ　日本紀雄略巻ハ勞軍ヲとゝり
○のろふ　霊異紀ハ咒をのろふ　伊勢物語ハあしの法をそゝ
てなをの法びをとる所る　枕草紙ハこゝ所る人をの法び

まぢくゝゝゝなどゝゝたり
○ふれぶふ　源氏初音ハふまぢびめぐきをるゝしやあるゝゝ
夫木集ハ西行法師ものかとさねにふれぶびてなどあくゝ
北法をゝ所りゝ万葉二ハかゝれふらぶくゝとゝるゝをふれを延
ひゝゝるゝ集
○ふるふ　舊事紀ハゆらゝゝハ布瑠部と行ふ
○みそなふ　新古今集ハ神ゝをゝとけをゝれをゝゝゝ
所りなをあり
○ゝゝゝふ　古事記上巻ハ委蛇（モヨヒキ）又　日本紀ハ所し　源氏葵
ハをゝゝふをゝゝゝゝ　ゝ紀ハ構上巻ハふげてゝふれをゝゝ

[illegible]

○まとふ　日本紀神武巻哥ふかもよせのさゝいそびもゝ茂登倍等云

古事記ニハおよゝびとよりまさぐて第四の巻ニハ　[illegible]　[illegible]　辞を

受ると云ふ説きの桜ちるか

○まとふ　字鏡ふ餽寄食也　毛良比波　元とゝたり

○やゝふ　続日本後紀長歌よふみまろ氏博士不雇　須

○ゆるぶ　源氏紅葉賀ふ心ゆるびなきとあり

○よろふ　万葉一又ゝ[illegible]子呂布とよろ

○よろぶ　源氏夕貌ふうちよろよろぶとあり

○たくなぎさと　なげらひ　ぢぶを　ぢぶ　まもし

をまもること　きこゝろあるさを

ちみを　ちゝみ　ぬまもを　ぬまもも

ちゝふ　のきを　のゝく

しその中に此四段ふ法きたるも故ふ[illegible]

ぶ又たゞ某[illegible]詞をのゝ[illegible]ふのゝこゝにて法ふ[illegible]

ふ[illegible]又二童[illegible]

はひ　はひ

ゝ[illegible]又それをのゝ[illegible]ハ[illegible]

おろふ　ふゝだく　又万葉二ふ下つ閉ふなゞれふゝばへなゞ

ふ　ふかを　ふゝとゝ　ものゝ又それを　ふゝだく

此類も猶ありなどいふべし

一段の活詞

○もる 和名鈔ふ噴和名波奈比流噴嚏也 古今集ふるかの
ぬの乱れなどなほありてまれとも噴
かなどし詞なれば

ひる 干

○ひる 噴

中二段の活詞

○あらぶる

此ふるとは俗言ふひるといふ例なり

○いなぶる

○あらぶる

○こりぶる

○おらぶる

○こぶる

○ちぶる 強

○たちぶる

○のぶる

○まのぶる

○ちぶる

○おもぶる

○かぶる

○こぶる

○ちぶる

○ちぶる

○ち

且此行麻行るてそ四段の活まれとも仕行るう部めてハこ
れ活きとときとえこう此類なれこれのまもあり
○いなふる 源氏末摘花ふいなびぬ心とて 又若菜ふかく
いなびぬるを 又徳角ふえきこいなびでなど所あり
○うかふる 祝詞ふ疎夫留まこ疎備(ウトブル)などありこれも麻行
りてハ四段の活まれ
○うれふる 三代実録ふ憂(ウレフ)比(ヒ)あり活て此行をつねこう
行の下二段の活みれこと用ひたると右のかくあるそ四段の活れ
格ちうはれと此外ふ活まれたるとえこれそ何まてこまた
しかるハまあがこれと四段の活まてばうまてん うれたぬ

うれたじ などいふ字まあるまはそいかぐこもかぐ
これ活りてそこれ うれたん うれたじ といふ格ちう
かくそいかぐきまるなれそこえ知せる所あり但し用しそ。
ま二がこふ活く初の例ロ段の活と中二段の活又ロ段の活と下
二段の活あどにハこれれあまど中二段と下二段とに活きて用し
こんかこそ例ちしなれ仕行ロ段の活初のたくまふと下に
いくこふ活りまきこる活し
○おらぶる 万葉九ふさびぬ(カラビ)於良妣 日本紀崇神巻ふ咩咤(ヨバヒ)又
雄略巻ふ呼喚(ヨバヒ)ちどふるのみまて外ふ活なれそ四段の活とも
おもくど行こ此活のかくなるべし

○こぶる　字鏡に媚ハ古夫　霊異記に媚ハこびとゝゝ　古事
紀上巻に媚附云こゝゝ　此外に活きたるもとゝゝぶれども
こゝに活用ときこえてあり　漢籍読にそこゝゝ
らきばゝたにりくあり
○きのふる　万葉三に いなとしくぐ　強流志斐　能我強語云ゝ又
六帖四に人ともきのびしきどころ
○きふる　和名鈔に聾　和名美ゝ比又盲　和名米ゝ比　古事
紀にもあめこれもみに活きるとゝぶれども此活用きこえず
○きのぶる　源氏箒木に たゞぬまどゝもとゝれきのびて
云ゝ若紫にきのびさせ給ふ

きゝきこえぬあれぞ云ゝ　巻花物語にゝゝ此とゝれの巻に
きのびさせたまふなどあり　きせといふ活用を第二の変格に
なる中二段の活用にかぞへ　此系きのぶる　きのぶれといふハ
変格にして　万葉十一に不竊隠を古き点にきのびて
とあり　はてゝ初に段にもこれ活きてこゝハ全くおとゝし
○きぶる　源氏朝貞に のゝしりすぎぶるゝと行ひ活用も　麻
行にて八四段の活用なれば行おこめてこゝに此活用なり
○たけぶる　古事紀上巻に建而　訓建云　祁夫　万葉集十一に おも
ひ多鶏備てなどあり　又日本紀雄畧巻に叱咤たけびゝ　又
たけびゝゝえんとも　訓点あり　此外に活きたるもとゝれに尽ぐされバ

四段の活用ごとにたとへば定めがたしされど先達のこゝ
におしおきつゝ井手ふよんでたゞいふ辞を第一の言ようと
受るを四段の活の格第二の言ようとくるゝこゝに格ちがへば
たゞけだし[illegible]と第一の言ようといひて八九て四段の活
用ごとにたゞしあと第二の言ようよりいひて八こゝに活用なるかく
ニダやうにてよみこれを四段ようを中二段ようを活用なり
○ゆくもゆくぶる 万葉十七ふおのゝ毎名のゝきて登母之夫流
かゝねとゆうこまも 麻行ようを四段の活用なり
○ゆきぶる 万葉一ふ柔備ふし云くとあり此用を外ようく
ゆきまどもこゝに活ふ外ようべし

○ゆぶる 物語書よ弥びとゝのひ用とあるもよいふ此用を
かゝれこゝあめて外ふはゝゝまもるゝこゝにおもふこゝに活
用ようきこゝこゝ素
○ゆゝぶる 伊勢物語よかるいひのうくだなるこゝにて
ゆゝびりくめとあり此活ざこのなり俗言ようかとびるといひて
○まなぶる 千載集序に此哥ようまなぶるこゝもきく
こゝに云くとゆうて又下にふこゝにこゝまなびといくうこゝ
乃活ようまなびけ初四段の活ようの用ひてかゝいくうく外ようえあ
こゝこゝ更こゝにこゝ用しこゝこゝこゝ
○むかぶる 六帖三ふ淀をもつぶるこゝに云く 源氏蓬生こ

例をかくるもの多くめるもの又文字よりもまたかくるもの
はてもこれをなかぶ〜あり

○ゆやぶる 続日本紀宣命ふ爲夜備(ヤビ)ニ未都利(マツリ) 日本紀継體巻
ふ礼賢(キヤビテ)まつる 跪(キヤビテ)礼などあり はて又日本紀孝照巻ふ礼神(ヤビテ)ヲ
ず三のまるよりて下へたぐげてよめるそ四段の活の格をめきれ
ど此初のさま四段の活詞の如くゆはあ〜ぐ〜れ活詞のこと
ゆたにおもそるれぞ〜におせう別かよく考へべし

○うれ〜び かなし〜び たふと〜び そそ〜びなどあり

も 麻 行りてそ四段のはるき初なるまで此行よりそ初めて
これ活きの別るべし

下二段の活詞 此ふるを俗ふへるといふ例なり

○あふる	あげまふる	あぜらふる	
○あつ別ふる	いらふる	○おくまふる	○くらふる
おさふる	おそふる	かふる	○かふる
かぞふる	かぐまふる	かぐふる	○かぐふる
かまもふる	くぐる	くらぶる	くらぶる
○こ〜らふる	こやふる	さふる	さあぐまふる
さぐらふる	○さ〜ぐふる	○まぐふる	
そふる	そろふる	○たふる	たがふる
○たぐふる	たくはふる	たぐまふる	

たゝふる　たゝふる　ちがふる　はらふる
はゞふる　はゞどふる　ゝゝのふる　ゝゝなふる
ゝゝらふる　。あゞる　なゞらふる　なゞゝらふる
なゞゞふる　なゝゞふる　のゞめ　。そふる
ゝゝゝゝふる　。ひゝふる　ふゝゝふる　ふゝそふる
かゝらゝゞふる　まゞがふる　まゞゝふる　まゝそふる
ゝゝゝゝふる　ゝゝふる

○ゆふる　蜻蛉日記ゝかゝゝゝのゞめゝあゝれゞゝゝゝ
ゝゝゝゝ

外ことぶれとも此法の例なり

○かゝふる 竹取物語ふかゝなれり 蜻蛉日記やうそのめく

かゝてものしぬ 栄花物語楚王夢の巻よなくゝかゝまう

うせたくりなどゝあり てかゝふかゝる かゝれといくるえあ

たらぶれどもかゝ法く例なり又也行下二段の活用てかゝ

かゝる かゝれ かゝえといふ初らとも思くどもてゝ物とまう

ける八古事記こゝに法初よりひもとくゝ物のつゝきなる八也行

の方よりいてゝ物こゝの法初なるべし

○かゝまふる 栄花物語月宴にあるしかゝまつる三ゝ又かゝまつる

物こゝにてくなど則平物語

○こゝらふる 日本紀に慰喻とあり又こゝらといくる八物語書

にもあるこれを也行にもあるべし

○きこゞふる 竹取物語又心にもきこゞとあり

○きふる 玉葉集夏夕されぞ法こゝ此のはちにて系り

玉ゆりすふるのゝくしきとよあるきぐといくる八考のこゝし

○たふる 源氏物語相撲にえまきふとあり たくと八考にお

○たゞふる 敦忠集にわゞもこゝふる此をまく たゞくといい

こゝにきこゝのくゝ則こゝ

○なぶる 蜻蛉日記に内にこゝにやけこゝしふくとこゝ法こゝひ八お

しなぶるなあゝこゝれを也ぐといくるきあ行し又うつ行物

[illegible]

なぶるちり[illegible]行と麻行とかよふハ[illegible]

けるのゝ[illegible]て麻行の下二段の活用あゝ[illegible]

○ちふる　万葉十八ゝ[illegible]波布流ゝ[illegible]なくハ云ゝ　新古今集

ふちあちふるでとゝ[illegible]

○ちらふる　万葉十七ゝ中臣のふとのみゆきをいひ波良倍　伊勢

物語ゝちらくハ[illegible]に　六帖ゝちらふるとゝ又ちらふれバ又ゝ

活用てちらこゝ[illegible]ん云ゝ　後撰集夏ゝ[illegible]ちる　拾遺集夏

にちらふるとゝ　同哀傷ゝふち　云ちらへてけつる　後拾遺

集雜ゝはちらくけつる　兼盛集ゝ河[illegible]ちらふるとゝなと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まもるもろもろさだれそこれ法行の於ゝんこそもさん

〇万葉十五ゝまもるゆゑゆゑ多麻布 禮杯 狭衣

ふきぬのそそをおろくぶぶく 拋草紙ゝもろもろ紙

ゝもむすぐるゝ記きれてしるゝのなどあるまてかゝ

活ぶれぐゝ九活用ゝ

ふゝを逆ていもむまぐハ むまぐれと結ていくるなり外ゝ

此ゝ[加]行下二段の活の考ゝいくわ

麻行之圖 并受るてにをはの圖

四段の活	一段の活	中二段活	下二段活
讀 ヨム	見 ミル	試 コロミル	責 セムル
ま	み	み	め
まんぬじでぞ	まんぬじでぞ	まんぬじでぞ	まんぬじでぞ
み			
しるぬるちの	しるぬるちの	しるぬるちの	しるぬるちの
む	みる	むる	むる
とらごきんめろ	とらごきんめろ	とらごきんめろ	とらごきんめろ
		むる	むる
をふまでかな	をふまでかな	をふまでかな	をふまでかな
め	れる	れる	れる
どゞぐむ	どゞぐで	どゞぐむ	どゞぐで

四段の活詞

たのむ　たのしむ　たのもむ　たのもむ
ちぐむ　ぢもむ　ぢかむ　ぢかむ
ぢくしむ　○ぢぐむ　ぢもむ　○ぢもむ
ぢくしむ　なぐさむ　なぐつむ　なぐつむ
なくさむ　なやむ　なまづむ　なまづむ
なくぐむ　○なぐむ　○ぶかむ　○ぶかむ
ぬくむ　ぬるむ　ぬるむ　ぬるむ
のむ　のぐむ　のむ　のむ
○ぬづくしむ　ぬげむ　ぬぐむ　ぬぐむ
ぬかむ　ぬるむ　ぬらむ　ぬらむ
○ぬるむ　○ぬるむ　ぬるむ　ぬるむ

ふくむ　○ふくぐむ　かとりハむ　まもろむ
○ふくつむ　むしむ　ゆむ　ゆむ
ゆむ　○ゆくむ　○ゆくかむ　ゆくむ
ゆのむ　ゆるむ　よむ　よどむ
○よくむ　よむ　ゆむ　ゆむ
ゆろがむ　○何だむといふゆ料あるくしろたこと代法うり
○あくむ　源氏若菜ふるえであくみ　うつ不越後後藤ふ天
下丸人いひあくみて　狩衣よりなくみはとうせるふ　浜松中納言
枝枝よりあどころきあくむなどあり

○あくも　万葉二又敵見有と訓れ此外又法華経にもこれ法なるべし外二度の所にもあらず、

○いぐも　日本紀神武巻也聚居之吃聚居此云恰皮涕蓉　又欽明巻に充満なるあり

○こぐなも　続日本紀宣命に天地乃宇倍奈弥由流毛と訓る

ナくこれにこれ法なる儀し

○こうぶそもも　伊勢物語にわがもしらぬとうるしみせよと

○おいぐも　松草紙においぐもとあり

○かも　和名鈔に揚俗云波奈加無　源氏縮角巻にはなかもば

しぐこちかくそなどあり

○かいるも　いなる物流れかいまぐてりあり　大和物かたりに

かいぐもえそ所をいくも

○かぐも　霊異記に鮮を可弛弥　日本紀又続日本紀宣命に

鮮とあり

○かぐげなも　続日本紀宣命に辱弥とあり

○きぐも　好忠集に於ちにきぐも　拾遺集にとろろ

○ころも　挾衣とあり

○こりもも　古今集にこりもとあり

又源氏物語にこりもとあり

○ちぐかむ　源氏行幸ゆきあそばしたふねうしろにいとさ
ひなくちぐかうるる　枕草紙ちぐかみるる髪ふなどあり
○ちぐむ　万葉十八ちぐ保美かれゆく
○ちぐじも　源氏明石ちぐじもまとなりて又為ちぐ
ちぐじもうぐいすしかぞ又夕顔ちぐしみ云〻　清松中納
言物語ちぐかうんちぐむる人そなどうんこう
○ちぐむ　枕草紙ちぐいこうちぐみかれてとあり
○ちぐも　万葉九ちぐかしはぐも皺奴　字鏡ちぐ皺を
於毛反志和牟なりあり
○たもむ　万葉三ちぐしよ撓回舟ハまくむこのうらを

撓轉小舟又十六ちぐやちのちぐ紀多来見ちぐとなどあり
撓を地名ちぐたみてちぐもみちぐいこれらあるこもるし
ぐもちぐうちぐ中二位ちぐ法ちぐ用ちぐ
○ちぐむ　今撰和歌集ちぐ為真人ちぐ立枝ちぐ形ちぐ花ちぐ
かせちぐと長ちぐ
○ちぐも　万葉集十七ちぐはちぐもちぐ等毛ちぐ美し
なちぐ和ちぐあり
○ちぐかむ　源氏物語第十ちぐおちぐみちぐよ一枝衣ちぐみちぐ
なちぐハくちぐ
○ちぐこむ　日本紀崇神巻ちぐ和享ちぐあり

○ふぐむ　源氏葵に「ふぐるまぞ　栄花物語に「ふぐ」
「ふぐみ」
○ちづかむ　続日本紀宣命に「愧美」とあり
○ちるる　和名鈔に「痿痺俗云比留無夜末比」此活用と等し
○ふくむ　源氏物語紅葉賀に「ふくだみ」「ふくるび」
んぐきなど見え　あり
○ふるぶむ　源氏夕負に「ふるぶてまゐる」「ふるぶる」
後撰集雜に「ふる川のみつわくるぶておいたる」「ふるぶ」あり
○やくけむ　古事記上巻に「御子」「不平」「不平」
日本紀神代巻に「拏體不平」「拏」あり

○やすかむ　古事記下巻に「護葬」とあり
○よろむ　万葉集四に「老舌出て與余年」「與余」
活の「よ」
○なみ居　「なみ立る」「なみ」
あ〜代又万葉七に「ぬ」「ぬ」の変のかげに「将比疑」とあり
行中二段の活用は　紅の「ぬ」活にあ〜ぬ
ぬ〜八　誤ぬ

一段の活詞

みる
見

中二段の活用　此もるを俗言そみるといふ

○なもる（俗）　○うもる　○うもる　うもる

○たもる

○あもる　古今集に於ゆめあんとてこそ枕を流す

わもるをなもる湯をなどなり

○うもる　狭衣ようしるもるくんなうんよわいとあ

ようしるみといふるをあり

○うもる　源氏井川よきくうもるをうもるをなり

○相此四段ふるを波行の中二段ふるを活きて皆同じそんし

○たもる　万葉六ようきき多武流ふるをゆゆ又二十か

もろもろき伊多年流ふるなどなり其の外たんたんたんた

かくもある　○かくもある　○きくもある
きくもある　きくもある　くるもある
はもある　はもある　きもある
○えぐもある　えぐもある　えぐもある
○えなもある　まくもある　ぜくもある
そくもある　○そくもある　○たくもある
たくもある　たくもある　たくもある
たくもある　ちくもある　ちくもある
ぬくもある　ぬくもある　ぬくもある
ぬくもある　なくもある　なくもある

なくもある　なくもある　のくもある
たくもある　たくもある　ちくもある
もくもある　もくもある　もくもある
かもある　○みくもある　やもある
ゆくもある　やもある　やもある

○何もあるといふて自分おぼえ　皆こゝ氏活なり、

○あやもある　堀川百首こゝろ　ゆめかふはこゝまゝ　ゆめ

散木寄歌集又ゑもあるものゝ　きぬたかそこ　だいこあふ人

ひやあまもあ　濱松中納言物語　ゆめあまもあ　ゆめあまもあ

あやあまもあ　あやあまもあて人つま　ゆくりなくなあまもあ　ゆめ

○えもの　万葉二十よりれふ依志米しとあり

○おもの　源氏桐壺よおぼしたそかるこゝろ　枕あり

○からもの　伊勢物語よりからあくれ　落窪物語よ

かもるやうにたなびくなり

○きたもの　続日本紀宣命よ支多米ぬふべく　日本紀皇極

巻歌よりこゝろのかみとこゝろ岐多麻須母とあり　けまくもむ

の近ためるなり

○さもの　源氏行幸よりもこゝろぐるしめひて　浮舟よこゝろ

きさもめかゝることめてたなどしくあり

○さぶもの　於迭素雑よさぶしとまくとあり素

○さもの　日本紀崇神巻匿をさもなくてとあり

○せもの　狭衣よ於のぐるをとちかかくさりにせあこ

又毋さるまこせるなるよりあきさるなるなんくあり

○そもの　源氏桐壺ふあしたくめをとそなりたゝ又竹川

にそもんれとなくなり

○たふもの　新古今素序よ尊をふとふるなりとあり

見るのぶるハもるいあるなし

○たもの　六帖よ真弓もがあり　後拾遺素雑ふ君よ

こゝろひあるこゝろ八洲よ弓をもるとあり

○たりもの　源氏紅葉賀よたりもこゝろあり

○ともをもる　万葉十ホ今ゝホル　ホ年ゝ　又ニ一ホ目莫令見

○たもる　万葉十七ようち波米底とあり　又いせあ波よきつゝ

はあなでとあるもあハせの詞なるしはれどもハ同し詞

○ゑもる　源氏繪合ゑいかゝゑもあてと行ふこゝ此活き所なし

○ふのもる　万葉二ホ深目手ゝまくど　古今素ゝ何ふふあて

ゝもひそゝんハんなどゝ行ふ

○見そもる　万葉十七ゝ見之米とあり

○蜻蛉日記ゝはれバそゝいのちを法ゝもれとあるを於しあ

の迎ハめゝるゝてこゝ此活初りあゝぐけと上りもいくあり

也行之圖　并愛るてにをはの図

中二段活

老 オユル	報 ムクフル
愈 イヤル	榮 サカエル

下二段活

い	で そ ま ん ぬ じ
て う き し る ぬ る ち の	て う き し る ぬ る ち の
ゆ	ん ん う ま ら ぎ ゆ と
ゆる エ	か な ま で み ふ を よ り
ゆれ	な や ど も や

○此行ゝ之四段の活一段の活なゝし

中二段の活詞　ゆゝる　ゝゝる　ゝゝる　ゝゝる

○ゝゝる　源氏手習ゝ年のゝゝるまゝくゝとゝあり

○やゝゝゝ三下

○こゆる　万葉五ノ三ノ十　許伊ふてなど明示あり外ノ
こゆる　こゆる　こゆれなどは活きみるるとえくばれども加く活く
羽の例なり又こゝ　こゝる　こゝれと活きて　阿　行の羽ノ
もなきもあれどこゝ　こゝなどやうの外の行ようて
もこゝけを此行の羽なるこゝあきこゝけし
○むくゆる　こゝ形物語　後撰　むくいんと活り

下二段の活詞　此ゆるを俗言ようそえるよりは例なり

○あゆる　○あゆる　○あゆる　○あゆる
いゆる　○いゆる　○おゆる　おゆる

おゆる　きゆる　○こゆる　きこゆる
こゆる　こゆる　きこゆる　きこゆる
○たゆる　たゆる　たゆる　○たゆる
○たゆる　○たゆる　○たゆる　まみゆる
みゆる　もゆる　○ゆる　○もゆる
○あゆる　こゝ形物語　蜻蛉　おそびゆきたに　おそびゆる
えそゝかれこゝれたる子のあそゝのあゆもむかゝし　蜻蛉
とゆきこゝれるこゝろのこゝあそゝ年をこゝの雅ぶとゝきこゝく　後撰集
こゝこゝの代こゝ新こゝるのこゝ形あんあこゝてきこゝね　金葉集　連歌
なゝふゝ　ゆゆゆ

○あゆる　万葉八に　ゆふかげ草　ゆふかげ草　安要奴が子
花咲ちるまで　云々　又十八に　秋萩を　安要奴の花の阿要奴がに
云々　又十八に　安由流（アユル）　実八ゆるぬきに　云々　などゝ
○あゆる　落窪に　血あゆる　枕草に　ゆせあゆる
ゆるぶ　ゆるぶ　ゆるぶ　行あゆる
○ゆるまゆる　源氏　井川に　あゆえて　寄生に　ゆるえてきて
葉に花　我に　ゆるゆる　皆　あゆえて　ゆるゆるありて　分に　流れた
ゆるゆる　えあゆ　ゆるゆ　波　行下二段の活用　ゆるゆ　ゆるゆ　俗云ふ
あゆゆ　ゆるゆ　といふ　用　ありべし　ゆるゆ　ゆるゆ　活用なるべし
○いぶる　和名鈔に　嘶　和名以波（イハ）由　源氏　総角に　ゆるゆ

いぶる　後拾遺に　系に　ゆるゆ　いぶる　ゆるゆ　などゝ　打系し　ゆるゆ
を　近き世に　ゆるゆ　いぶる　いぶる　ゆるゆ　波　行の四段の活用　いぶる
新古今に　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ
○おびる　万葉に　系二に　協流（オビユル）　源氏物語　箒木に
やとおびれど　若菜に　おびえさわぎて　などあり
○こゆる　万葉十四に　みこゆるまでの　伊波久敷乃君が久由べき
○志なゆる　万葉二に　之奈要て　云々　十又十九に
之奈要　ゆられなど　あり　ゆて　ゆ　波　行の四段の活用
きたるよの　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ　ゆるゆ
○ゆるゆる　字鏡に　舂豆比（ツヒユ）由　とあり

○たゝめる　万葉二ニよかるれを波由流とよゝそう

○ゑゝる　拾き集る多ハひそゝそ八ゝるとゝあり

○ゝゝめる　霊異記ニ喪ヲ保由と訓注あり

○ヨりめる　出雲国造神賀詞ニ御若敵坐　忠岑ノ集ニとゝ保

第の志ゞ〳〵ゝとゝあゝ志ゝとゝめてよ　忠見集ニ人のヨりめる事の

うへに　赤隠岐門　拾き集ニ家ニヨりめるなどゝゝ

○ゝゝめる　古事記中巻ニ御軍皆遠延而　日本紀ニ痺瘓などの字をゝゝよゝゝゝ

ゝゝ見めべハれど　日本紀ニ行らぬ

ゝゝゝゝ

○此行ニそ一段の活用なし

羅行之圖　并受ることゝゝの圖

四段の活

去ル	釣ル
ら	ら
まんぬじでぞ	まんぬじでぞ
	り
	しつけんなばてきて
	しるめるまろ
	る
	とゝらしぎらんめり
	れ
	をゝくまそかなよろ
	ゑ
	ゑゝゝゝゝゝ

中二段活

下ル	舊ル
り	り
まんぬじでぞ	まんぬじでぞ
	り
	しつけんなばてきて
	しるめるまろ
	る
	とゝらしぎらんめり
	り
	をゝくまそかなよろ
	ゑ
	ゑゝゝゝゝゝ

下二段活

枯ル	晴ル
き	き
まんぬじでぞ	まんぬじでぞ
	しつけんなばてきて
	しるめるまろ
	る
	とゝらしぎらんめり
	れ
	をゝくまそかなよろ
	ゑ
	ゑゝゝゝゝゝ

四段の活詞

ある	あがる	あがる	○あがる
○あぶる	あぶける	○あぶる	あぶける
あぶる	あなぐる	○あぶる	あぶる
あつる	あまる	○あぶる	あつる
いる	いる	いかる	いる
○いぶる	いる	いたる	○いぶる
いまる	いのる	いたる	いまる
うる	うげる	○うたる	うる
○うるまる	える	○おがる	○うるまる

おくる	○おくまる	おくる	おくる
おそる	○おそる	おそる	おそる
○おかどる	○おかねる	かる	○おかどる
かる	かる	かる	かる
かぶる	○かる	かぶる	かぶる
かぶる	かぶる	かしる	かぶる
かしる	かしる	かる	かしる
かしる	かる	○かなる	かしる
かる	かる	きる	かる
きる	きる	きる	きる
くる	くる	くる	くる

○此外あいれどるかうぐるくるしぐるなどいくる

○右は拳ゆる初の中に省居のニッいくくろゆ明れ。ゆくこ
ゆ法の法の外三の言く。ぐそうふ。ぢ。ハ図ゆくそるるぢるめく
切るく初と陰く初とも分有てれそあるとあるとも。を。と
。。。

ひろ此をくさぐさぐるなり案

○あなくる 日本紀舒明巻ノ入畝傍山因以探山 欽明巻ホ考穴敦古今 又字鏡ノ敦阿奈久留 栄花物語うゝ〳〵北別に常力や流口やなどいふものどもよるゐるはよゝし関をかゝえなどしていとうとうしてあり世ノそおかの風ものゆくいこはくふもいかくゆくしなるなり

○あぶる 字鏡ノ焚河夫留 後撰集物名ノ衣あぶらん

○あやかる 枕草ノ紙ノ上やかやまとさくとなり

○いさる 万葉十五ノ伊射流火波とあり

○いつがる 万葉九ノ伊都我里まつせばとあり

○うゝなはる 大祓詞ノ集侍 続日本紀ノ末為宇古那波礼留

○うゝまる 古事記下巻ノ庭まゐめ宇受須麻理弖

○うまそる 日本紀允恭巻ホ蕃息仁賢巻ノ殖皇極巻ノ不蕃息などあり

○おぎのる 字鏡ノ験於支乃利 工作日記ノおぎのり見ぎをして用ゐあり

○おくまる 源氏若菜ノおくまりる又槿姫ノおくまりて云く

○おそる 続日本紀宣命ノ懼理と云ふはて此用井者ノ八此下二段の法さうの用をいくるをとくをかく巳段の法をこそ用ひゝ此例隠觸志などあり

○おそやかくる　う敷茅後陸奥のおそやのふるぶぶたこく

○あやとる　万葉十四又ふちの木にたし於保登禮流とあり

又源氏東屋あやとれるとあるハ同し　初ときくくれぐく

くるといふてうとはゆ方四のまきてうう受てる八此下二段の例な

て活き異なれるゆ習ものかくあり

○おそもねる　日本紀神武巻な侍媚をおかねうとよえう

○かくる　古事紀上巻寄りのまき山な日ゞ迦久良婆下巻りこもな

賀久理　万葉十五りまそしまな我久里なとの例あり此初も

上りいくる如く中昔ようわハ此下二段の活りのみ用ひくう

○かげる　古事紀下巻りの日の日賀氣流美夜こく　祝初り

もあり又新古今集夏り秋とあるのかげろひてたそかれ

くもあるとあるもかげろひてたそかれ

○かなくる　源氏箒木りこもあるかなくあなとあり

○くもる　字鏡り鐵ハ伊比久佐礼利とくたり

○くねる　古今集序り女郎花の二時をくねるるもこく

蜻蛉日記りまくくそくねてかくるなとあり

○くくかる　竹取物語りせかくくくくくてとあり

○くくる　常花物語月宴り世くくくくてかくれあり

○くくやる　古事紀中巻歌り河彩くくり許夜流許夜理母と

よくくり又古今集りよくくくくくくくる依夜の中山を奥義抄

[illegible]

○[illegible] おらこ[illegible] 物語又狭夫照り[illegible]

○[illegible] 栄花物語に飾り[illegible]

○[illegible] う[illegible]

○[illegible] 古事記下巻寿[illegible] 麻理斯麻理[illegible]

○[illegible] 伊勢物語又女[illegible]

[illegible] 又源氏乙女[illegible]

○[illegible] う[illegible] 物語[illegible]

桐壺[illegible]

○[illegible] う[illegible] 物語[illegible] 源氏[illegible] 又

集[illegible] 須々呂比[illegible]

[illegible] 堀河百[illegible]

[illegible] 同二郎百[illegible]

堀河百[illegible]

[illegible]

○[illegible] 宇治拾遺物語[illegible]

[illegible]

○[illegible] う[illegible] 大学[illegible]

[illegible] 万葉集十七[illegible] 神楽歌

よゆそめ河菜と曽く利あげよなどるそくこうわ

○そくこうる おちうこれ物語りちわそくこうへそくこうわて蜻蛉日記せりくこうこうこせもむるどいひしてそくこうわゆかるれどと巣花抜紙楚五美よそくこうかふせくこうそうこうこうなどいくり

○くこうなこうる万葉一り畳有枕草子り襲のうちくこうなこうへわて狭衣ひりよたくこうへわかゆそてなどあり

○ゆくこうる字鏡り醋左加奈豆く志留とうんくこうり又源氏箒おりはたくこうかうくこうよ又万葉五りかくこうそれと取都豆之呂比どもも延ていくり

○ゆくこうる字鏡り膳乎始非也豆波利乃登支 和名抄り擇食豆波利 おちうこれ物語りいつしかを捨わ捨べバ金葉九よくこうかくこうれよ ゆくこうへくこうれどもれくこうかどあり

○かくこうこうる神樂哥りみてくこうたなくこうしものをうくこうれの

くこうりくこうれてなくこうこうる べくこうこう古本又拾遺集りハ淺句を

なくこうこうハまくこうをくこうはてハ波行の四段の活詞とかくこうこし

○なくこうる万葉十五り人奈夫理のみこのくこうて河くこうらんと河せ

○りくこうる字鏡り蹋不弥尓志留とうくこうり

○りくこうる日本紀天智巻り鋭鈍カ竭とあり

○ねくこうる字鏡り譫祢夫留と河り

○のくこうる日本紀齊明巻りハ病自蠲滔とあ

○ちぢる　万葉二十よ波奈利蘇乃はゝそそたれてとなりかく
ゝ宮居りても活くとゝえゝゝゆわこれ水中首よわ也穴下
二段の活きよのこいへり

○そびゝる　日本紀顕宗巻の被をそびゝれ又ゆゝこれ

○ひゝる　和名抄よ痢久曽比理乃夜万比又放屁倍比流
ゆゝとゝえゝり

○ひゝゝる　於き条よ於の活よゝゝゝゝゝる亦を狭衣三り
白かねの活よせてひゝゝゝゝゝる於の帯うみどめれゝゝ堀河百
首夏よみ月而也日数よるまでゝもわるゝべれゝゝの巻ハひゝゝゝ
ぞりゝゝ能ゝあり

○ふる　万葉二十よいそゝん布理古事紀下巻よゝふゝゝゝゝゝ
ゝゝゝくはゞ布穂なゞあり　はゝゝゝくゝゝゝの活びよふれゝゝゝ
はゝゝゝ氏活の格ゝゝれも中首よわハ下二段の活りれゝ用
ひゝゝり下二段の活りゝてハゝゝゝゝの活びゝふゝれゝゝいふゞ宣りも
はゝゝぢあまゞひゝゝゝゝゝ

竹取物語より法ばうこめたまかもけるふるこそそこ

○まくる 枕草子より油かいぶくわとあり

○まなのがる 古事記上巻よりたくさき麻那賀理とあり

○むかる 万葉二十よりの数牟加流ふねとよめり

○もぐる 宇治拾遺物語よりのしあいうわかまわてきのぶき

かぎわもぐりぶくりこと河東

○やはまる 続日本紀宣命に息安麻流倍伎又休息安麻利豆

○ゆる 住吉物語より土もちゆわしうはるとあり

○ゆはる 神樂歌より由須利あけよそくわのよりあり

○よくさる 源氏若紫よりよくさわたしましるとあり

○ゆるる 日本紀神代哥よりおきそるかきそるくゆるあり

ぶぬねしいもそ和素羅珥よりこぶくもそ万葉二十に

和須良年砥などゆりけてかくゆ一の書よりおむのてほを

はもと受る八図のかく四殿の法よりかぎれる此も中昔よりあり下

二殿の法きたのそいくめり古事記より八妹八ゆはれし世のことく

きこゆりかくてもて下二段の法なり

○ゆぶかまる 枕草子わぶくまろとあり

○ゆこぶる 日本紀より誘製 源氏若菜よりゆこぶるとも

の心りて漢松井弼て物語よりゆこぶりなどありて式部も八

日本紀より[illegible]釈[illegible]れそこたいぶ[illegible]

○そもそも日本紀神武巻に望見又睨などよめるを望の
字にかゝしは皆日本紀の例字ばかりよりてなり〳〵に出せり

○万葉十三に〳〵もの花の末枝乎須具里又十四にはぎこねらふり
十八に羽具久毛流又宣命に祈毛流などなる八はぎぬ〳〵
そゝぐもゝ〳〵もみと延てるのゝたてゝ此法則なるべし
万葉十三の歌四し毛ゝ乃と出てゝそゝとそゝ播のゝつゝそゝと過而
とあり此例上りもこれなきあく其處なるいくるゝ如し

○まゝ活て四段の活の方四のまゝにまゝ活ゝ
さらんさらんさらめさらる
さりれおもくらんおもくうおもくるおもくれおもくらん
ゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝるゝ全くこれ活き

ざゝ日形ゝ活まゝ活ゝ活ゝゝゝ

ふりがなをしるしたるあり

下二段の活詞

此るゝを俗きうと例

あゝ　あぐる　あぐる　いる　うる　おうる　おとる　おぶる　かる

かる　かる　きる　くる　ける　こる　さる　しる　する　せる　そる　たる　てる

○右の拳する外四段の活用の其第一の音よりおのゝ活用
活くし又一段の活用中二段の活用の其第二の音よりおのゝ
きくはゆ　えるもと　えるもを　おるもを　おるもと　こゝ
こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ　こゝ

○あぐるゝ　源氏物語幕本ノ詞ニ空蟬ヲ
ゆぐるゝ　けそひ　肴ノ字あり
○あぐるゝ　宗鏡ノ曜、魚肉烟也阿佐礼太刺ト行り
○あびるゝ　物語文ノ詞ニ　ぬるゝ　ぬれ　ぬるゝ　ぬれ　ぬるゝ　ぬれ　ぬるゝ　ぬれ　ぬるゝ　ぬれ
はるゝ　はれ　はるゝ　はれ　はるゝ　はれ　はるゝ　はれ　はるゝ　はれ　はるゝ　はれ　はるゝ　はれ
○おもぶるゝ　源氏東屋ノ詞ニ　おもぶるる　又ハ　ぶる　又ハ　髮ノ
その俄ノ　おもぶるる　肴ノ字あり
○かぐるゝ　万葉九ノ舟ノ　かぐ　ノ　香具禮ト行る　肴ノ
ゑ　ばれ　ばれ　ども　無活詞なるべし
○かぶるゝ　和名物ノ漆瘡、和名宇流之加不禮ト行り

○くるゝ　神樂哥ノ山人ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ
物語書ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ　くれ　ノ
○ものぐるゝ　散木奇歌集ノ　ものぐる　ノ　ものぐる　ノ　ものぐる　ノ　ものぐる　ノ　ものぐる　ノ
ものぐるれ　ものぐるれ　ものぐるれ　ものぐるれ　ものぐるれ　ものぐるれ　ものぐるれ　ものぐるれ

はなのかりかくも法く初うやかりうんあてこそ

○ちくみやうう　初花集　意こいてしかぶのこそ[illegible]

とあり　速ち炭焼とかもこそ

○そうう　吏木集　春の[illegible]ぬまてそこそうれう

○そうう　狩衣つよわ〳〵ひそうう[illegible]けそひとなのりまこと

今撰和哥集ゝ為真入そこうくひまの藤の花がさちめぬれ

たそふるさ雨なそうれてこそ[illegible]くこそよめり

○こうう　古事　紀上巻ゝ字士多加礼ゝ行り倍さうハこうか

と四殿の法初ゝ行くう

○こうう　古事　紀上巻ゝ血烟をちあんこうれうこうこうゝ

○そうう　源氏夕顔ゝはふれぬ法をこうゝ

○もうみう　日本紀神代巻ゝ血涙をもこうれうこう此こうめこと

千載集ゝもうみまてこうゝかなどあり

○むう　丹後守為忠家百そう為歳いこうぞこうもう

こうかれうこうありもれとハつねかこうくいこう

○やう　神楽歌ゝ神こうそやまあこう

○ひこう　物語書ゝこうこうひれといこうのみこうてかこう法き

こうめこうこうあやこうれとも此法をかこうこう

和行之圖 并変るてにをはの図

一段の活	中二段活	下二段活
居キル	率ヒキル	飢ウヱル 植ウヱル
ゐ	ゐ	ゑ
きんぬじでぞ	きんぬじでぞ	きんぬじでぞ
しるげんうてなきて	しるぬるもつなべきて	しるぬるもつなべきて
ゐ	う	う
とらしぎらんめう	とらしぎらんめう	とらしぎらんめう
ゐる	ゐる	ゐる
よめをふまでかな	よめをふまでかな	よめをふまでかな
ゐれ	ゐれ	ゐれ
ぐるぶぐむ	ぐるぶぐむ	ぐるぶぐむ

○此行ゆそ四段の活詞

一段の活詞

居 ゐる

○和名抄に艘、俗云爲流、船著沙不行也又斷此間云波井流迦傷酢也などゐるハ同きるに又同きりて異あるゆそ羅行の四段の活詞なるべし

ゐる ゐれ ゐる ゐれ ゐる ゐれ

ゐるゐるゐる

[illegible]

これをひきくるるの[illegible]

[illegible]八此[illegible]

○[illegible]日本紀崇神巻[illegible]急居此云[illegible]岐子[illegible]物語文

[illegible]

下二段の活詞　此[illegible]を俗言[illegible]八[illegible]

○[illegible]　字鏡[illegible]鐵伊[illegible]

○[illegible]　伊勢物語[illegible]

○[illegible]　古事記上巻[illegible]蹶散又蹶離　日本紀[illegible]楚散此云倶織

難還く箇須[illegible]ば[illegible]て和名抄[illegible]蹴鞠世間云宋利古由[illegible]

り用ひ[illegible]なるをかくいひてそ也行の下二段の活りて假[illegible]

も異[illegible]

○[illegible]　延衡集[illegible]

の関を[illegible]

○ひくる　古事記中巻[illegible]斐恵泥[illegible]此[illegible]

たる[illegible]

の定[illegible]

○五十三丁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文化三年春三月

詞共は多くいかとなる歌よむすも。文かくふも。法めふ書る毎ふ。ふこ
くんとゝ先て。志ゝ[illegible]ふ。志ゝ
いふへ[illegible]ふ。よくゝ[illegible]
人も。まめふへ[illegible]毎おらさるへけ
まゝと。おろふ[illegible]。或ハいまゝ

花ろくあるをきゝぬくみ。何くれのことよ。よ
ゝて。かゝ酒をゝ思ひむかさゝ何くゝ
てハ。思ひもまゝ人。ふた何をなくあてゝ花
うむることも。あゝの色れハ春て。春庭。
此ひゝ。暫ふるゝせ。これうをの書とゝあ。
人ゝ春きゝうせなをもるついてゝ。これを

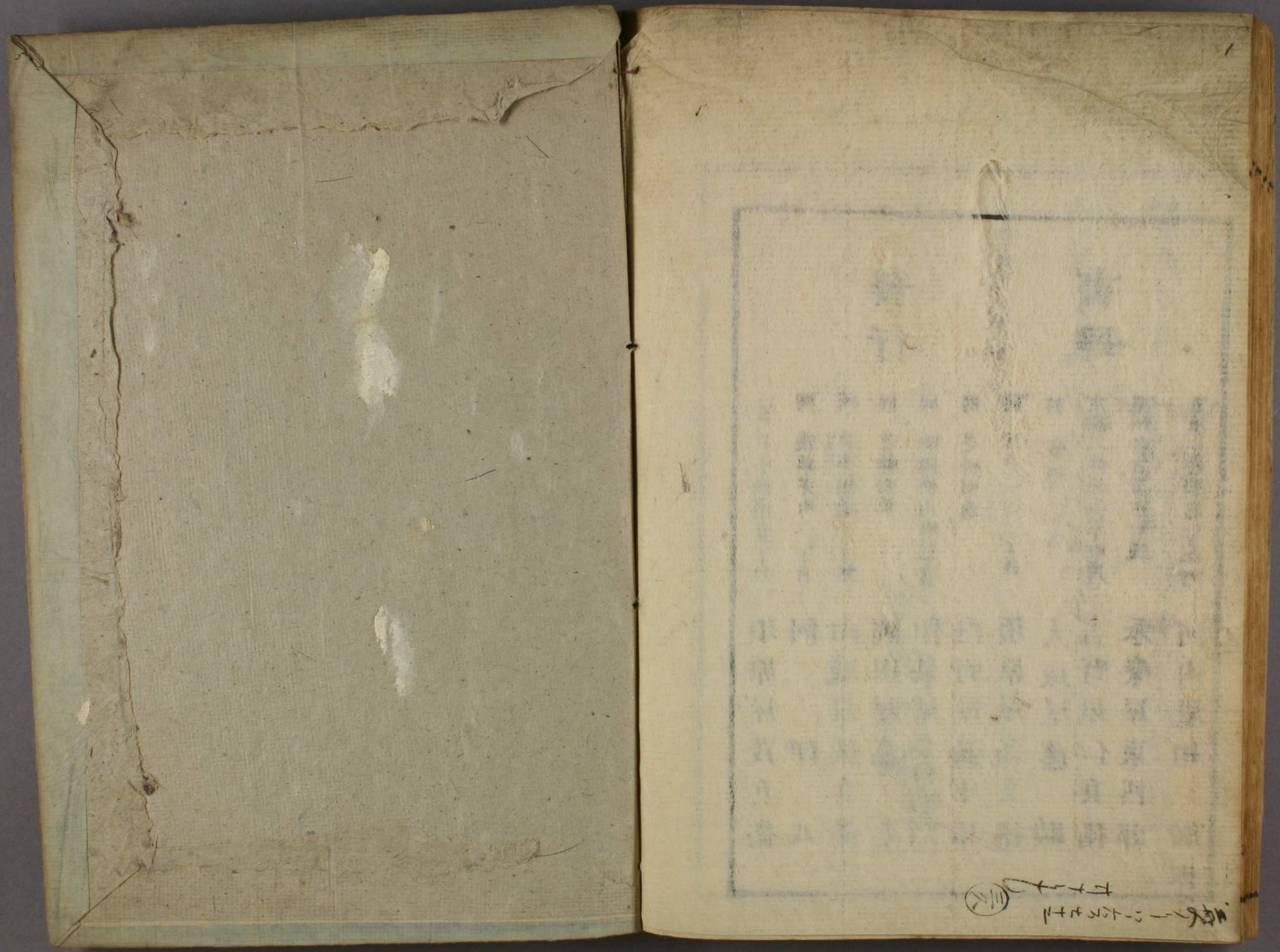
をる〳〵。引いつゝ茅 調とも。法みいてゝお
きゝるう〳〵ゝ。春よく考へ正しゝて。ちをハ。
そのはゝ〳〵ゝ。れうれ。ちれ春ちことゝ春ゝ
なを。春ゝ人きゝあゝて。うれ秋ゝみふ更
かゝ人れ。春ゝ春ゝきをきをつゝう物し
あゝ春ゝ。春ひきゝ。かむうゝおよ

はぬもあるもの。此やちまるはまち〳〵

ふ素そく〳〵て。わきまへてよあー〳〵。

本居大平

發行

同 浅草茅町二丁目 須原屋茂兵衛
同 日本橋通二丁目 同 伊八
同 芝神明前 山城屋佐兵衛
同 兩國横山町三丁目 岡田屋嘉七
同 芝神明前 和泉屋金右衛門
同 日本橋通二丁目 内野屋彌平治
同 室町二丁目 須原屋新兵衛
京都二條通御幸町角 大坂屋藤助
[illegible] 吉野屋仁兵衛
[illegible] 永樂屋東四郎
[illegible] 河内屋和助

書肆